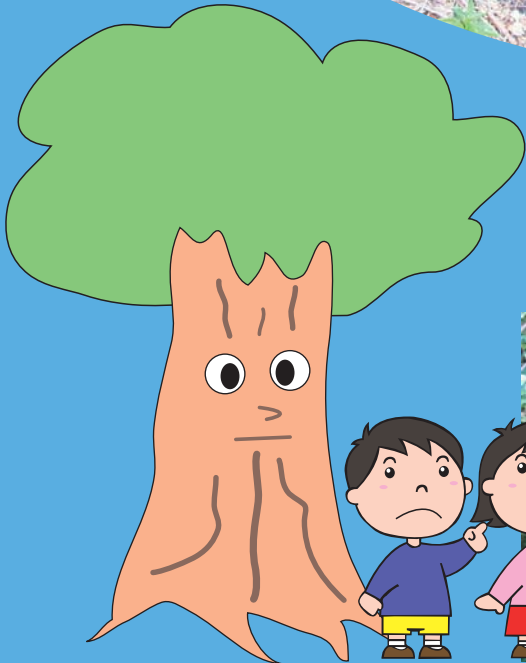


わたし

私たちのまちにも

とっ こう き ち

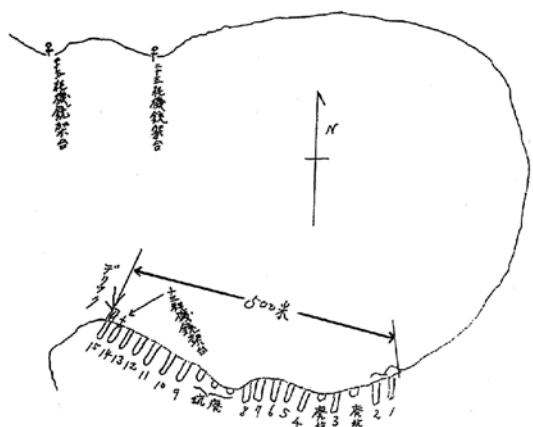
特攻基地があつた



1. 私たちのまちにも特攻基地があった

写真は、市街地山手上空から撮影したものです。60年前（1945年）は湾が大きく陸地に入り込んでいました。見渡す市街の大半は、その後埋め立てて出来た土地です。

左側海に突き出した山を西牧山といいこの山裾にそって15カ所の壕が掘られています。



元隊員が書いた壕の位置



当時は、壕から砂浜にレールが敷かれ震洋艇がすばやく出撃できるようになっていました。



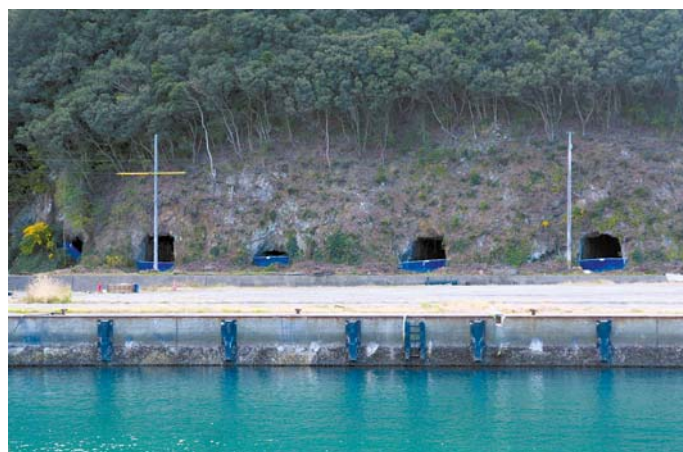
この洞穴は、何か分かるかな？



壕はすべてが同じ大きさではありませんが高さ、幅とも約3.5m、奥行き約20mです。

入り口は60年の風雨に耐え、昔のままの姿で残っています。

これが震洋特攻艇の格納壕です。これらの壕には、24隻の震洋特攻艇が格納されました。



越港から見た基地跡、15の壕が現在も残っています。

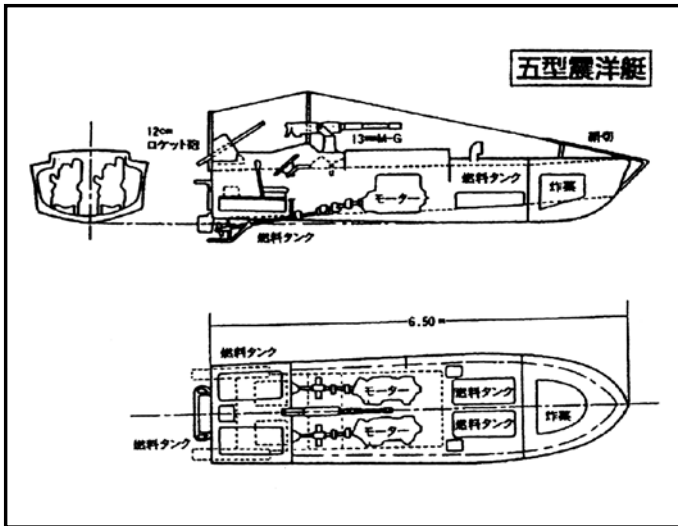
2. 震洋特攻艇はこんな船だった



ご がた しん よう とつ こう てい
“五型震洋特攻艇”

震洋

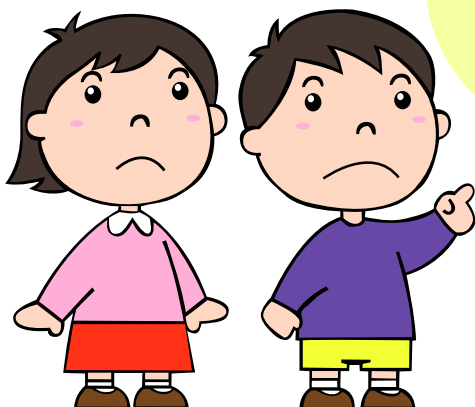
いっばつ ひつちゅう
一発必中、敵艦を撃沈し、太平洋を震撼させるという意味が込められている。



五型震洋艇は全長6.5m、幅約2m、材質はベニヤ板性で、重量2.4t、67馬力エンジン2基の計134馬力、速力25ノット(時速45km)、二人乗りの特攻艇である。

船首に250キロの爆薬を積んで、敵の艦艇に体当たりを行うものであった。当たれば当然、乗員もこっぴみじん。不発時には、自らの手で引き金を引いて爆発させる事になっていた。

3. 特攻隊員は少年だった



ぼくたちと一緒に
らいのお兄ちゃん
たちが、戦争にで
てたんだ。



第132震洋隊の搭乗員。艇隊長の3人を除く搭乗員45人は平均年令17歳の少年兵であった。

4. どうしてこんな特攻隊をつくったのか

日本は、朝鮮を植民地にしたあと、満州を支配すると更に中国本土を攻略しようとしてきました。そしてこれに反対するアメリカ・イギリスを中心とした連合軍とついに戦争を始めました。1941年（昭和16年）12月のことでした。

戦場は東南アジアの国々や、太平洋にまで広がりました。日本はやがて負け戦に転じ、太平洋の島々で玉砕があいついで、本土が爆撃を受けるようになりました。3年を過ぎたころには、都市だけでなく清水の村々さえ爆弾が落とされたり米軍機の銃撃を受けるようになったのです。

この頃になると日本は押し寄せる敵艦船や、爆撃機に立ち向かう軍艦や飛行機はほとんど失われていました。しかし、日本は「1億玉砕火の玉だ」と叫び、大本営は本土決戦をする方針で、震洋艇などによる自爆特攻隊を沿岸各地に配備したのです。

幸い1945年（昭和20年）8月に終戦を迎えましたが、もう少し長引いていたらこの少年特攻兵や私たちの清水はどうなっていたでしょうか。



震洋特別攻撃隊基地跡之碑

1945年（昭和20年）6月、米軍の本土上陸に備えて、ここ越湾に特攻部隊が配置された。

二人乗り合板艇の艇首に250キロの爆薬を装填して、敵艦船に乗員諸共体当たりする震洋特別攻撃隊である。

全隊員171名中、艇搭乗員は48名、主として17歳の少年達であった。

戦況の緊迫につれ、再三出撃待機命令が出されたが、出撃には至らず終戦を迎え、若い命が九死に一生を得たのであった。

ここに現存する洞穴は、この震洋艇の格納壕である。

二度と繰り返してはならない戦争の惨禍が風化されつつある今日、戦後60年の節目にあたり、この壕が未永く保存され、恒久平和への道標として、生きた教材となり語り継がれることを念願し、茲にこの碑を建立する。

2005年（平成17年）3月吉日
元第一三震洋特別攻撃隊基地跡保存会

震洋特別攻撃隊基地跡之碑

基地跡保存会が、志ある人の寄付を集めて建立した碑。

元特攻隊員からも寄付が寄せられました。

参考資料

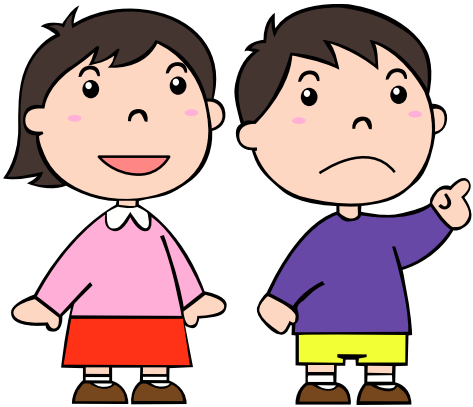
- 1910年（明治43年） 朝鮮を併合して植民地にする。
- 1932年（昭和7年） 満州国を建国して支配する。
- 1937年（昭和12年） 日中戦争始まる。上海・南京など中国などの主要な都市を攻略。
- 1941年（昭和16年） ハワイ真珠湾攻撃、太平洋戦争開戦
グアム島占領
- 1942年（昭和17年） フィリピンを占領
マレー半島・インドネシア・ニューギニア各島、各地を占領
ビルマ・ラングーンなど占領。ミッドウェー海戦に敗れ戦局転換する。
- 1943年（昭和18年） アッツ島をはじめとして、日本軍の玉砕と撤退始まる。
- 1944年（昭和19年） 日本軍玉砕（サイパン島・グアム島その他）
B29爆撃機による連日の本土空襲始まる。
レイテ沖海戦で、日本艦隊主力を失う。
- 1945年（昭和20年） 米軍、フィリピン占領
日本軍硫黄島玉砕
米軍沖縄上陸。全島民を巻き込む戦場となる。
清水などに震洋特攻隊配置される。
日本各地、毎日の空襲にさらされる。
ポツダム宣言発表、日本これを黙殺
米軍、広島長崎に原爆投下
ソ連、日本に宣戦布告
日本ポツダム宣言受諾
8月15日終戦

5. これからの私たち

人間を人間でなくし、たくさんの人々のかけがえのない命を奪い合う戦争。私たちは、もう二度とこんな過ちを犯してはなりません。

戦後60年、日本は過去の反省にたって戦争をせず、平和な国でした。これからも、平和な国であってほしいと誰もが願っています。

ここ越湾に残る特攻艇格納壕は、平和なくして明るく幸せな生活はないことを、無言で私たちに教え続けているのです。私たちは、この無言の教えに心耳しんじをかたむけ、もっともっと学習して、日本を永久とわに平和で明るい国にしていきたいものです。



特攻基地があったことを学習して
みんなはどんなことを思ったのかな。
話し合ってみたいな。

メモらん

メモらん



立て看板



特攻基地跡の案内板



特攻基地跡の場所

年	組
なまえ	

発行日	平成19年2月1日
発行者	土佐清水市教育委員会